



## 大学院博士課程の在籍者内訳から見た女性研究者の供給力についての考察

文部科学省が2012年12月21日に公表した「平成24年度 学校基本調査\*」の結果を分析すると、大学院博士課程における女性比率の増加に女性留学生の影響が大きいことがわかりました。例えば、H24年度において、工学・農学分野では博士課程学生の約1/3が外国人であり、工学では女性の5人に3人、農学では女性の2人に1人が外国人留学生であると推定できました。博士課程在籍の女性が我々研究教育機関における研究者の卵ですから、今回は女性研究者の供給力という視点で考察してみます。 \* [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm)

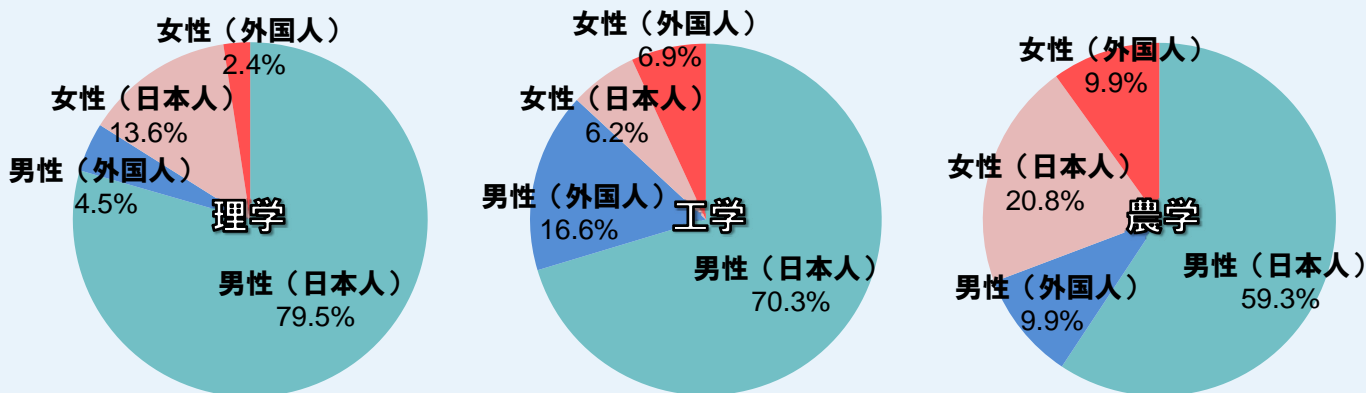
博士課程の人材供給力を考える上で、留学生以外にも考えなければならないことがあります。博士課程の在籍者は10年前と比べて理学・農学分野では減少傾向にあります。その理由の一つは留学生ですが、もう一つは社会人の増加です。下記の表は、大学院博士課程における社会人(すべて日本人と仮定)と外国人(大学院全体の男女比率から推定)の人数から、一般の日本人学生数を推定したものです。

| 平成24年度<br>博士課程 | 理学    |       |     | 工学     |        |       | 農学    |       |       |
|----------------|-------|-------|-----|--------|--------|-------|-------|-------|-------|
|                | 全体    | 男性    | 女性  | 全体     | 男性     | 女性    | 全体    | 男性    | 女性    |
| 在籍者数           | 5,178 | 4,232 | 946 | 13,741 | 11,500 | 2,241 | 3,798 | 2,513 | 1,285 |
| うち社会人          | 555   | 456   | 99  | 4,050  | 3,578  | 472   | 857   | 632   | 225   |
| うち外国人*         | 846   | 550   | 296 | 4,690  | 3,330  | 1,360 | 1,263 | 638   | 625   |
| うち日本人学生**      | 3,777 | 3,226 | 551 | 5,001  | 4,592  | 409   | 1,678 | 1,243 | 435   |

\* 大学院全体の男女比率と同じであると仮定 \*\* 社会人がすべて日本人であると仮定

在籍する学生が全て採用候補者となるわけではありません。文部科学省 科学技術政策研究所が2009年3月に報告した「我が国の博士課程修了者の進路動向調査」によると、外国人留学生の3割が日本にとどまり、3割が帰国あるいは第3国へ出国、4割は不明となっています。不明者の多くは国内の大学・企業等に在籍している可能性が低いと考えられますので、**採用候補となる外国人は1/3程度に減少すると予想**されます。

また、社会人の多くは出向元の企業等へ戻ることが予想されますので、ここでは単純化のため採用候補者から外すこととします。以上の考え方から、我々研究教育機関において採用候補者となる大学院博士課程在籍者の内訳は下の円グラフのようになりますと推定できます。



第3次男女共同参画基本計画における自然科学分野における女性研究者の採用目標は「理学系20%、工学系15%、農学系30%の早期達成」です。大学院博士課程の在籍者内訳を考えると、**理学16%、工学13.1%、農学では30.7%が女性研究者の供給力**となります。ただし、目標達成のためには外国人女性を多く取っていく必要が、男女共同参画だけでなくダイバーシティの点からも非常に高くなっているのがわかります。

(小木曾)



## DSO参加機関の公開イベントのご案内

### ◆弘前大学◆ 「研究者のトビラ」開催のお知らせ

<http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/tsuga-ru/kagaku/index.html#schedule-130325>

弘前大学男女共同参画推進室では、若手を中心とした進化・行動生態学者9名を弘前大学にお招きし、以下の要領で「研究者のトビラ」を開催いたします。

午前の部では、見やすい資料やポスターの作成方法を東北大学の高橋佑磨氏が実演を交えて解説します。午後の部では、「オスとメスの関係を取り入れた生物の世界の新しい理解」を共通テーマに、タンポポ、マメゾウムシ、チョウ、カメムシ、バッタ、トンボなど、昆虫を中心とした身近な生物たちを用いた研究をわかりやすく紹介します。その他、研究をはじめたきっかけや背景、仮説の証明方法、共同研究の大切さ、うまくいかないときの乗り越え方、研究の成果の広め方、研究の上で大事なことや苦勞など、を語ります。また、行動生態学と他の研究分野との関連性や、研究成果がどのように役立つのかについても紹介する予定です。

このセミナーは、学生の方にも研究者の方にも楽しく有意義なものとなるようにと、バラエティーに富んだ話題ながらもまとまりがあるように工夫しました。地球上のあらゆる物体がニュートン力学の法則に従って運動するように、生物の世界は自然選択によってすみずみまで合理的に形成されています。「生物学」は暗記ものではないことを実感してください。

**【日時】平成24年3月25日(月)10:30~18:30**

**【場所】弘前大学 総合教育棟 304号室**

**午前の部:効果的な研究成果公表のデザインテクニック (10:30~12:10)**

- ・伝わるデザインの法則と小ワザ:あらゆる資料を見やすく美しく  
高橋 佑磨 氏(東北大学)

**午後の部:オスとメスの関係を取り入れた生物の世界の新しい理解**

**第1部:オスとメスの関係による分布とすみわけの解明 (13:30~16:10)**

- ・少年時代のなぞを大人になって解く  
西田 隆義 氏(滋賀県立大学)
- ・生物の教科書にけんかを売る一仮説を検証する意味一  
岸 茂樹 氏(東京大学)
- ・共謀する楽しみ~メスの過ちをいかに暴くか?  
西田 佐知子 氏(名古屋大学)
- ・雑草を探して島めぐり~外来種侵略の真実と科学的検証のリクツ~  
高倉 耕一 氏(大阪市環科研)
- ・笹枯れで分かった棲み分けの仕組み:  
クロヒカゲとヒカゲチョウに起こった天変地異  
井出 純哉 氏(久留米工大)

**第2部:性はなぜあるのか - 性が種内で果たす役割を解明する (16:20~18:30)**

- ・オスがなくならないのはなぜ! ? ~“モデル”から挑む生物学最大の謎~  
川津 一隆 氏(京都大学)
- ・危険すぎる異郷のオスとの恋:カメムシのメスに訪れる悲劇的顛末  
日室 千尋 氏(岡山大学)
- ・天敵から身を守る工夫~生態学が見るバッタ・ロボット工学と見るバッタ~  
鶴井 香織 氏(弘前大学)
- ・少数派からみた多様性の進化学:トンボの色彩変異を例に  
高橋 佑磨 氏(東北大学)

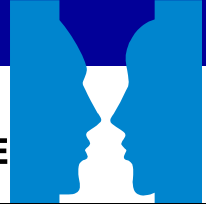


**【お問い合わせ先】**

**弘前大学男女共同参画推進室 鶴井香織**

**TEL:0172-39-3885**

**Email: [tsuruik@cc.hirosaki-u.ac.jp](mailto:tsuruik@cc.hirosaki-u.ac.jp)**



## DSO参加機関の公開イベントのご案内

### ◆産業技術総合研究所◆ ロールモデルとの懇談会 ～育児と研究生活の両立～

[http://unit.aist.go.jp/diversity/ja/event/130314\\_dso\\_seminar.html](http://unit.aist.go.jp/diversity/ja/event/130314_dso_seminar.html)

日時: 2013年3月14日(木) 12:00～13:00

場所: 産総研 つくばセンター中央 共用講堂 多目的室

ロールモデル:

**佐藤 縁 氏**

(独)産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門  
ナノバイオデバイス研究グループ 主任研究員

**岩浦 里愛 氏**

(独)農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所  
成分解析ユニット 主任研究員

概要:

外部研究資金を獲得しながら着実に研究生活を進めると共に、育児を含めた家庭生活と両立されているロールモデルに、ワーク・ライフ・バランスの取り方、外部研究資金を使用した研究生活など、これまでの歩みについて話していただきます。

対象者: 産総研で働く方、DSOの参加機関の方

参加費: 無料

申込み: 氏名・所属・メールアドレス・事前質問(もしあれば)をご記入の上、DSO事務局へ電子メールにて3/11(月)までにお申し込み下さい。当日参加も可能です。 [diversity-s-office-ml@aist.go.jp](mailto:diversity-s-office-ml@aist.go.jp)

**ランチタイムを一緒に**  
**ロールモデルとの懇談会**  
「育児と研究生活の両立」

**ロールモデル**  
**佐藤 縁 氏**  
(独)産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 ナノバイオデバイス研究グループ  
**岩浦 里愛 氏**  
(独)農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 成分解析ユニット

**この懇談会は**  
多方面で活躍されている女性研究者ロールモデル(佐藤研究員など)の方を毎回お招きして、ワーク・ライフ・バランスの取り方、仕事と育児の両立、生活例(育児手帳など)、キャリアパス、研究のこと、よからなこと(どんな趣味が楽しかったか、またあったか)などの話題を語りながら懇談会です。男女共に参加し、男性の参加も歓迎します。

**これまで参加された方の声**  
テーマに即する声と、プライベート生活(育児)の両方についてお聞きすることができのよかったです。  
生活の具体的な声が増えて参考になりました。  
勉強になりました。  
他院、所属に異なるとしてのめり方が伝わって、刺激になりました。

**日時**  
2013.03.14(木)  
12:00～13:00

**会場**  
産業技術総合研究所つくばセンター 中央棟1共用講堂 多目的室  
[http://unit.aist.go.jp/diversity/ja/event/130314\\_dso\\_seminar.html](http://unit.aist.go.jp/diversity/ja/event/130314_dso_seminar.html)  
※詳細の情報はホームページでご確認ください。

**参加費無料** 産総研の方、DSO加入機関の方が参加できます。

**参加お申し込み方法**  
氏名・所属・連絡先、大学名、メールアドレスを記入の上、電子メールにて3月11日(月)までにDSO事務局へメールにてお申し込みください。お申し込みは「[diversity-s-office-ml@aist.go.jp](mailto:diversity-s-office-ml@aist.go.jp)」宛でお願いします。  
※電話 029-862-6418

**DIVERSITY SUPPORT OFFICE**  
産業技術総合研究所つくばセンター  
〒305-8568 茨城県つくば市梅園1-1-1 中央第2 つくば本部・情報技術共同研究棟7階  
<http://unit.aist.go.jp/diversity/ja/dso/>  
TEL:029-862-6418 FAX:029-862-6882 E-mail:diversity-s-office-ml@aist.go.jp

## お知らせ

### ◆(独)農業環境技術研究所◆

#### 女性研究者研究活動支援WEBサイトをリニューアルしました。

(独)農環研では、H21～H23年まで文部科学省の女性研究者研究活動支援事業により、様々な女性研究者活動支援を行って参りました。H24年に事業は終了しましたが、今後も支援の質を落とさず、必要な支援メニューに重点化して取り組みを継続していきます。こうした取り組みを外部の諸機関や一般の方に知って頂くため、WEBサイトをリニューアルいたしました。是非ご覧ください。



<http://www.niaes.affrc.go.jp/sinfo/joseiken/>

## ダイバーシティ・サポート・オフィスのご案内

男女共同参画の取り組みを進めている研究教育19機関では、ダイバーシティ・サポート・オフィス(DSO)を組織し、ワークライフバランス支援や意欲触発支援のノウハウを蓄積・発信・共有を進めております。

\*DSOメンバー(参加順): 産業技術総合研究所、森林総合研究所、物質・材料研究機構、農業環境技術研究所、千葉大学、筑波大学、神戸大学、農業・食品産業技術総合研究機構、土木研究所、国立環境研究所、国際農林水産業研究センター、農業生物資源研究所、防災科学技術研究所、高エネルギー加速器研究機構、理化学研究所、宮崎大学、上智学院、弘前大学、岡山大学

「DSO News Letter」は各DSO参加機関へ、それぞれで働く方へ、また広く外部に向けて情報発信するツールとして月1回発行しております。当Letterの紹介も歓迎いたします。バックナンバーはDSOホームページにてご覧いただけます。